

5/14・5/23

小中学校運動会・体育祭開催

練習の成果を発揮し元気に躍動

雫石中学校体育祭が5月14日に、各小学校の運動会が5月23日に開催されました。

雫石小学校（児童数264人）の豊川^{ひろこ}浩子校長は「みんなの笑顔があふれる最高の運動会でした。運動会の取り組みを通して学んだこと、皆さんの本気パワーを生かして、これからもみんなの笑顔があふれる雫石小学校を作っていきます。たくさんの感動をありがとう。」と児童らを労いました。

各校の児童生徒らは、これまで積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮し、徒競走やリレーなど各種目に全力で取り組み、仲間と息を合わせて競技する姿や、大きな声で応援を送り合う姿が随所に見られました。

一致団結して競技や応援に真剣に向き合う児童生徒らの姿には、駆けつけた保護者や地域の人たちから温かい声援と大きな拍手が送られていました。



▲心と力を一つにし、白熱した綱引き（西山小）



▲ゴール目指して全力疾走（七ツ森小）



▲カゴに向かって力いっぱい（雫石小）



▲スタート前、緊張の瞬間（御所小）



▲息を合わせて挑んだ団体競技（雫石中）



▲パンに飛びつく姿には大歓声（御明神小）



▲山頂を目指し歩みを進める参加者ら

6/1

秋田駒ヶ岳山開き

登山シーズンを迎え安全を祈願

秋田駒ヶ岳（1,637メートル）が6月1日に山開きを迎え、山岳関係者らが今シーズンの山の安全を祈願しました。

また秋田県仙北市との合同記念登山を今年も実施。登山道の一部に多くの雪が残る中、参加者らは稜線から見える雄大な景色を楽しみながら慎重に歩を進めました。両市町は約3時間かけて山頂に到着し合流。恒例のピッケル交換を行い、登頂の喜びを分かち合いました。

特集

なないろ便り

人の動き・お知らせ

教育

観光・スポーツ

子育て

Town News

6/15 西山保育園にチャグチャグ馬コ 神事に合わせ園児たちとふれあい

西山保育園児たちがチャグチャグ馬コとのふれあいを楽しみました。馬コは、馬の守護神を祭る岩井花蒼前駒形神社(六区)の例大祭の後、西山保育園まで県道雫石東八幡平線を約1.5キロ行進して来園。

初めは恐る恐るといった様子の園児たちでしたが、馬コにエサをあげたり鼻先を撫でたりしているうちに緊張も解け、園内には歓声が響き渡っていました。



▲ニンジンあげて馬コとのふれあいを楽しむ園児ら

6/17 お二人がめでたく満100歳 長寿を祝い、感謝と敬意を込めて

町内在住のお二人が、めでたく満100歳の誕生日を迎えられ、はーとぽーと雫石で百賀の祝いが開かれました。

菊地泰子さん(1926年5月30日生まれ・セツ森)は花巻市出身。雫石町に移り住んでからは子育てに専念されたそうです。

大村榮治さん(1926年6月1日生まれ・下町四)は、バス会社にて、定年まで無事故で勤め上げられたとのこと。

お二人には、猿子町長から花束などが贈られました。



▲菊地さん(中央左)と大村さん(中央右)

6/18 第60回雫石町小学校陸上記録会 各校の5、6年生が記録更新に挑む

第60回雫石町小学校陸上記録会が、町陸上競技場で開催されました。

この日のために練習を重ねてきた町内各校の5、6年生児童らは、自己記録の更新を目指し、懸命に競技に臨みました。また応援団として参加した児童たちは、競技中の選手たちを力強く応援。各校とも一丸となって取り組む姿や、お互いの健闘を称え合う姿が多く見られました。



▲自己ベストを目指し駆け抜けました



▲岩手の唄や踊りでふるさとを懐かしみました

6/20 第46回在京雫石町友会・交流会 東京・日暮里に町出身者ら集う

首都圏在住の雫石町出身者が集う第46回在京雫石町友会総会・交流会が、東京・日暮里で開かれました。交流会には町友会員のほか猿子町長、町議会議員など約60人が出席。中川あい子社中の中川あい子さんらが、岩手の民謡民舞を披露し、会場を盛り上げました。

参加者は、ふるさと雫石の思い出話に花を咲かせ、いつまでも話題が尽きない様子でした。

羊の原毛から仕立てる
手紡ぎ・手織り工房

旅する羊

心を込めて紡ぐ

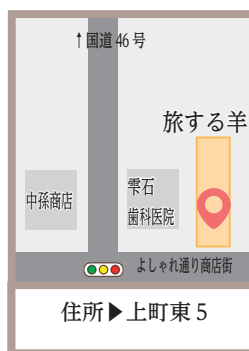
羊毛本来の色を

生かした1枚



旅する羊
のInstagram

営業時間▶11時～18時
定休日▶木曜日 ※現金・キャッシュレス決済対応



ショートマフラー



ストール

◆猪又裕也さん（42歳・千葉県出身）

1984年4月28日生まれ。東京の服飾大学を卒業後、アパレル会社に勤務。2018年より雫石町地域おこし協力隊として活動し、協力隊活動の傍ら、ホームスパンの技術を学び、協力隊の卒業と同時に起業。今年の5月より、よしやれ通り商店街に店舗「旅する羊」を構え、家族とともに営んでいる。

出

会いは、雫石町への移住がきっかけでした。町の地域おこし協力隊への内定が決まった後、これから住む岩手県という土地を調べていた猪又さん「そこでホームスパンという文化を初めて知りました。見た瞬間にやりたいと思ったんです」

協力隊着任中は休日を使って、盛岡へホームスパンの技術を学びに通い、任期を終えた2020年4月、ホームスパン作家として「旅する羊」を町内で起業しました。「店名の『旅する羊』には、海外から海を渡って仕入れた羊毛が、形を変え、誰かのもとへ届いていく様子を「旅」になぞらえています。旅が素敵な出会いに恵まれ、作品を買って頂いた人にとっても幸せな物になってほしい、そんな思いを込めています」

同店には制作工房が併設。ホームスパンが生まれる過程を見学しながら、お気に入りの一枚を選べます。また、猪又さんが生み出す作品は「本来の色」を生かすことを大事にしています。「羊毛本来の温かみのある色柄と、紡ぎ方で変わる風合いの奥深さを感じ取ってもらいたいですね。作品に込めた思いがお客さんに伝わり、大切に使用されていく様子を見ていられるのはやりがいを感じますね」と笑顔で話します。

今後はマフラーやストールに加え、服地や洋服づくりにも力を入れたいと話す猪又さん。岩手県発の手仕事として、雫石町から世界に挑んでいきたいと意欲を語りました。

あとがき

●今回の特集記事取材で中学校に行きました。自分の中学生時代を思い返しながら、取材をしていましたが、当時は当たり前だと思っていた給食が、たくさんの人たちに支えられているんだということを取材しながら改めて実感しました。ちなみに、私の好きな給食のメニューはカレーでした。（横）
●給食といえば、メニューに一喜一憂していた日々を思い出します。今の自分は好き嫌いが少ない方だと思っていますが、給食で様々な食材が工夫を凝らした調理法で提供されたことが、苦手の食べ物の克服に繋がったのだと思います。がんばれ、今まさに苦手の食材と戦っている子どもたち！（高）

雫石町公式エックス▶@shizukukouhou
防災行政無線が聞き取れなかったときは…
電話応答サービス▶☎019-692-6371をご利用ください。

「麻の夏洋服」

町歴史民俗資料館の収蔵品をご紹介します！



町歴史民俗資料館
(西安庭 15-39-7、木曜日定休)

夏が近づいてきました。かつては冷房要らずだった雫石町も、今ではエアコンなしではつらい季節になってしまいました。
雫石町といえば、麻織物。藩政時代からの伝統産業です。ひと冬に、一人三反（約36m）ほど織り上げるのが普通だったといわれています。今回紹介するのは、麻で織られた大正時代のモダンな夏服です。当時の人々は暑い季節も、こうした服装でさっそうと過ごしていたのでしょうか。実物をぜひ資料館でご覧ください。

